

令和6年度第4回 那珂市子ども・子育て会議 会議録

1 日 時 令和6年10月29日(火)午前10時から午後12時00分まで

2 場 所 那珂市役所本庁舎4階 庁議室

3 出席者

(1)委員

清水悦子委員、関登委員、勝山元子委員、先崎武委員、
永井裕美委員、笹嶋恵津子委員、長山達也委員、平澤紗恵委員、
平野由起子委員、平野道代委員、生田目奈若子委員、浅野和好委員

(2)こども課

課長 萩野谷智通、課長補佐(総括) 水野厚子、
課長補佐 子育て支援グループ長 古谷武、
課長補佐 保育グループ長 寺門賢一、主幹 野上涼、主幹 増田祐輝

4 欠席者 小笠原聖華委員、片岡理治委員、飯島ヒカリ委員、

5 会議内容

(1) 開会

水野課長補佐(総括)

(2) 会長挨拶

清水会長

(3) 協議事項

○清水議長

では、協議事項に入ります。(1)第3期那珂市子ども・子育て支援事業計画(案)について、事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

説明のありました計画(案)の内容について、まず質疑に入りたいと思います。ご質問や何かご意見のあるかたいらっしゃれば、挙手をお願いいたします。

先崎委員、お願いします。

○先崎委員

せっかくお送りいただきましたので、一字一句見させていただいたのですが、そのことについての意見を申してもよろしいでしょうか。

○清水議長

よろしくお願いします。

○先崎委員

まず1ページですが、文末に固有名詞が分かれた格好になっています。例えば、「平成15年」を途中で改行してしまうと、文章としておかしいです。だから、読点を操作すると修正できます。後は8行目のところに子ども・子育て新制度がありますが、子どもと子育てを分けています。

こういうことをやるといいかげんな進行しているのではないかと誤解されますの

で、固有名詞を文末で切れなような配慮をしていただきたいと思います。

○清水議長

冒頭に事務局からありましたように、まだ校正の段階ではなく、文章がかなり変わってくる予定でして、誤字脱字等も含め、未完成の資料が皆さんのお手元にいつています。今回最後だということで、非常に大事なポイントではあるんですが、一個一個の誤字脱字というところは省いていただいてご意見をお願いできたらと思います。

○先崎委員

大事なところだと思うのです。最後から4行目もアクションプランというのを、「アク」「ションプラン」(アクの部分で改行されている)となっているので、固有名詞は分けないでほしいということを申し上げます。詳細は事務局に渡します。

○清水議長

細かい文言の調整については事務局のほうで丁寧に扱っていただければと思います。ほかにご意見あるかた。

勝山委員、お願いいたします。

○勝山委員

前回、10ページの地域子育て支援拠点事業の利用意向、というところの「つぼみ」などの利用状況のグラフが余りにも使われてないような割合のグラフだったので、お願いしたところ、0歳から2歳児の保護者に限った統計に集計をし直していただいたようで、今回のグラフでは「利用されている」という棒グラフを見て、それが分かってよかったと思いました。

それに合わせて、14ページの数値も今回出されたものでは、「結果から見えてくること」が3割強とか2割強というふうに数字も直されていきましたので、大丈夫かと思いました。あと14ページの上の子育て家庭を取り巻く現状から見えてくることの丸4つ目、「転入者が転出者を上回る社会増が」という文が、ニーズ調査から見えてくることの4番目にも、同じように入っているのですが、これはわざと両方に必要なものなのかと思っているのですが、上だけにあればいいのではないのでしょうか。

○清水議長

ありがとうございます。事務局で回答をお願いします。

○事務局 古谷課長補佐

ありがとうございます。上の「現状から見えてくること」それから「ニーズ調査から見えてくること」を意味合いとしては同じような項目になるかと思いますので、上に記載があれば下の部分の「転入者が転出者を上回ることによる」の文章は削除してもよいと思います。どちらかに記載があればよいと思いますので、そちらについては確認して統一させていただきます。

○清水議長

ほかにありますでしょうか、事務局。

○事務局 水野課長補佐

10ページですが、本日差し替えでお渡ししたところには、0から2歳と3から5歳児の保護者ということで、事前にお送りしたのは0から2歳児のみで、集計した結果でお渡ししていたのですが、3から5歳児の未就園児のお子様も加えさせていたでいております。

○清水議長

ありがとうございます。ほかにご意見はご質問ございますか。

先崎委員、お願いします。

○先崎委員

基本計画の基本的な考え方というところに、みんなで子育ていいなかまの「い」が小さいですが、これは何か意味があるのですか。

○清水議長

事務局いかがでしょうか。

○事務局 野上主幹

那珂市としましては、「いいなかま」やこちらの単語を使わせていただいているのですが、形式的にロゴとして2文字目の「い」については小さい文字を使って、いいという単語を使う部分は掲載しておりますので、今回も2文字目の「い」については小さい文字にさせていただきます。

○先崎委員

前がどうであれ、普通の平仮名でいいじゃないですか。前が間違っているのではないのでしょうか。今回が最後で、私たちの名前も載ることですからみんなで検討して、やはり正しい言葉遣いが必要だと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局 野上主幹

那珂市としましては「いい那珂暮らし」をモットーに、様々な施策の展開をさせていただきます。

です。「いいなかま」というものも2文字目が小さい文字を使って、取組のほうを行っておりますので、ロゴという感覚でご理解いただければと思います。こちらにつきましては小さい文字のままいかせていただければと思います。よろしくお願いします。

○先崎委員

できれば直したほうがいいと思うのですが、いかがですか。やはりおかしいです。前がどうであれ、作った人の感覚が、「い」が小さい「いいなかま」のロゴが、那珂市の一つのパターンだ、固有名詞だというのですが、それが間違っているのではないですか。いかがでしょうか。

私たちのせっかく参画しているこの子ども・子育てについては、大きくして表現したらいかがでしょうか。前例にこだわることはないと思います。よろしくお願いします。

○清水議長

価値観の問題というのが非常に大きくなってくるかと思うので、このあたりについては委員のほうで決を取るという形でさせていただければと思います。恐ら

く事務局の意向として那珂市のアイコンということですね。

平野委員、お願いします。

○平野道代委員

先崎委員のおっしゃっていることもよく分かりまして、日本語としてはどうなのかなと思うところですが、おそらくこども課だけではこの文言に対してどうできるところではないのかなと思います。

シールにおいても何においても全部「いい那珂暮らし」、政策企画課を通してこれを使っていますので、それを考えますとこども課だけでこれを変えてしまうところとはとても厳しいと思われるところです。その辺のご説明をしてみたいかがかと思うのですが、そういうことじゃないんですか。

「いい那珂暮らし」とか、みんなもう、那珂市の場合には、そこを強調しようというのがあってシールでも何でも「いい那珂暮らし」とか、パンフレットでも「いいなかま」とか、そんな感じで全部使われている、それでこれを用いているってことではないのですか。

ですので、こども課のみで決めてしまうのは難しいと私は受け止めたのですけれども、その辺の説明不足というところもあるのではないのかなと思います。

○清水議長

1点質問させていただいていいですか。この以前使っている那珂市の「いい那珂暮らし」のロゴは、文面においても小さいものにされているのか、それとも通っているバスなどは確かに「いい」というデザイン的に小さくされているかと思うのですが、書面においても字を小さくされているのでしょうか。

○事務局 野上主幹

文章で使うのであれば、普通に大文字で使うのですが、今回の「子育てにずっといい支援」や「いいなかま」、「いい那珂暮らし」、那珂市の方針として決定した部分で使うものに関しては全て小文字で使って対応させていただいているという状況でございます。

そのため平野委員からもありましたとおり、市としての方向性の決定という部分で、決まっているところではあるので、こども課としてもそこを使っていきたいというところであります。

ですので、先崎委員がおっしゃられたところも理解できるところではあるのですが、このまま使わせていただければと思っております。

○清水議長

キャッチフレーズのところは理解の範囲になると私自身も思っておりますが、いかがでしょうか。先崎委員。

○先崎委員

大勢に影響ないと思いますので、承知いたしました。

○清水議長

ありがとうございます。

○先崎委員

今のページなのですが、育もうということで、その意味合いをこの間の会議で出したと思うのですが、この文面の中だと個人的な文章のように、2回か3回言い回しをもう一度繰り返しているようなところがあるので、この文面をもう少しすっきりさせたらいいものができると感じました。

○清水議長

ほかにご質問等ありますでしょうか。関委員お願いいたします。

○関委員

47ページ(5)養育支援訪問事業子どもを守る地域支援ネットワーク機能強化事業で利用実績という数字があります。令和2年度から始まり、令和6年度が極端に21件ということで、少なく4分の1の程度になっています。見込みですが説明いただければと思います。

○清水議長

事務局、お願いいたします。

○事務局 野上主幹

こちらの数字につきましては、計画を作成する際に、元年度から5年度までの実績を出しておりまして、6年度については9月時点での数字を出しておりました。そこから、ある程度見込み値を出す予定だったのですが、9月時点での数字をそのまま入れてしまっているという状況です。見込みで出すのであれば、おそらく80から90に近い数字になってくると思いますので、こちらについては修正させていただきます。

○清水議長

ほかはこの書類でのご意見はありますか。平澤委員、お願いいたします。

○平澤委員

20ページの6番のインターネットでの子育て支援事業の提供のところに記載してある、ママフレを那珂市の公式ホームページに掲載し、と書いてあります。実際にママフレを調べたところ2024年9月30日でサイト終了になっていたのですが、これはどういうことですか。

○清水議長

こちら、いかがでしょうか。事務局からご説明をお願いします。

○事務局 水野課長補佐

インターネットでの子育て支援情報の提供については削除せず、ママフレというサイトの活用の部分はホームページで情報を提供するという形に修正したいと思っています。

○清水議長

いかがでしょうか。私から意見を申します。19ページのところで、主要指標を掲載するという方針にいたしますという説明だったかと思います。ある項目とない項目が出ますという説明でしたが、やはり体裁的に統一していたほうが、見やすいと

思いますので数値目標ということにこだわらず、どういう方針で進めていくのか積極的なのか継続、維持なのかそういったところが、分かるような指標、文言として掲載するというのはいかがでしょうか。指標を数値で示しにくいものに関しては、そういった形にされるのがいいのではというふうに説明を聞いて思いました。

説明の中で19ページの表に関してですが、子どもの数がどうしても全体が減っているのに地域子育て支援センターの利用者数というのは、減少しているように見えますが子どもの数が減っているということで、延べ人数であるのであれば、利用者数が減っているという認識ではないと思いますのでその辺りも加味された、指標というのを考えていただけたらと思いました。

先崎委員、お願いします。

○先崎委員

一字一句については、事務局に私が書いたものを渡しますので、大事なことだけ言わせていただきます。

そこに3つ、17ページ上に那珂市次世代育成と書いてあります。その1番右の色が濃くなったところの第3期那珂市子ども・子育て、これも名称が分かれてますので、いいかげんなやり方をやっていると誤解を生じますので、固有名詞は「子ども」は左に改行すればいいと思いますのでぜひご配慮ください。

それから38ページに具体的施策として、上から3番目に、子どもの見守りということで、あるのですがそこは「推進に努める」ではなく、「見直しを図る」という表現が1番いいかと思います。

学校教育課の担当になっているのですが、38ページの上から3番目のところで、こどもを守る110番とあります。この間も話が出ましたが、これは推進を図るのではなく、市民協働課に言えば自治会長を通じてすぐにできるはずですので、見直し、という言葉がいいと思います。

○清水議長

目標は、以前話題に上がったかと思いますが今ある110番の家というのが本当に実際に稼働しているかということが不透明なのでそういったところで、制度をしっかりと見直したほうがいいという意見が出たので、ということですか。

○先崎委員

そうです。

あといただいた資料の58ページです。(1)と文章の間にあえてスペースが設けられているので、このスペースは取ったほうが、ちゃんとした人たちがつくっている文章だとなると思います。あえてスペースは設けないでもいいのではないのでしょうか。最後になりますが、自殺対策という言葉が使っているのですが、自殺予防対策という項目のほうが子ども・子育てには適するのではないかと思います。自殺予防対策と明確に表現したほうがよいと思いました。

○清水議長

では、書面についての意見はあらかた出たかと思いますが、内容について皆様

それぞれのお立場でいろいろ感じるところがあるかと思いますが、この先数年にわたってもう少しこういうことに目を向けていただきたいというような意見があるかと思います。

私のほうからこれまでに出了ご意見の中で大まかなものを少しお話しさせていただいて、その後皆様からこういったことも、答申として、那珂市の政策に取り入れてほしいということがあれば、お話しいただければと思っております。これまで第2回第3回でいろいろとご意見いただきました。内容について大まかなもののみお話しさせていただきますが、まず1つ目に学童の待機児童の抜本的な対策ということで、前期の第2期アクションプランでは、待機児童というのが保育所に対してでしたけれども今回は学童の待機児童というところの対策をしっかりとやってほしいというご意見が強く出ております。

あと私のほうでまとめましたが、見えない教育費についてです。教育費については様々な子どもにかかる教育費は支援等がありますが、見えない部分、例えば体操服や制服、給食とかランドセルですとかそういったところでお金がかかる、子どもが多くいればいるほどお金がかかるというところでは。

学費といった見やすいものではなく、かかってくるお金というのが非常に多く、あと通学用の自転車もそうですね、そういったところの見えない教育費を下げるということや支援をするというところを考えてほしいという意見が多くありました。

もう1点としては、働く親の支援としてこれだけアンケート調査においても、働く親が増えているという状況の中で、子育て支援に関しても土日の開催、講演会等を含め、土日の開催というのも積極的に行っていく必要があるのではないかと考えています。

最後に乳児期の親に対する支援として全戸訪問です。複数回もしくはオンライン等を取り入れて、乳幼児期の切れ目ない支援というのをもう少し具体的に実践していくということを考えてはどうかという意見がありました。この4点が以前からの会議で出ている、大まかなものかなと思っております。

これ以外のところでもいいですし、話しましたものでも構いませんが、この大きな指針として、こういったことも取り入れてほしいというようなご意見がありましたらぜひ、お話しいただきまして、会議の終わりのとき、答申に盛り込むかどうかというのは、挙手制でお話していただければと思いますので自由にご意見いただければと思います。

先崎委員、お願いします。

○先崎委員

お話ありましたように、子育ての親の負担を軽減するという意味で、ランドセルのリサイクルと自転車のリサイクルを市を挙げて、取り上げていったらいいのではと思います。ランドセルも駄目になってしまう人もいますが、大事に使っている人については、もったいない。そして自転車についても、高校卒業する前後にはもう使えなくなってしまう。

自転車屋さんと共同し、ベアリングを交換すれば十分使えると思います。ぜひ、ランドセルと自転車のリサイクルによって、市の施策に取り入れるか、支援によって、子育て世代の費用、経費負担の軽減が図られると思いますので、ご配慮いただければとご提案いたします。

○清水議長

このような形で様々ご意見いただければと思います。ほかの委員の皆様いかがでしょうか。

平野由起子委員をお願いします。

○平野(由)委員

清水先生から4つの今までの話が出たときに、先崎委員もおっしゃっていましたが、この見えない教育費はダイレクトに子育て世帯にはかかってくるのだと思います。しかし、方法論とか私も言葉にうまく落とし込めなくて、もやもやというところを話させていただきたいです。コロナ禍ともう一つありまして、あとは学校の働き方改革というところもすごく、目に見えて、各家庭のほうにも制度的なところで浸透もしつつあるのですが、保護者として直感的ですが、感覚的に、前の融通がきくというところが、今制度化されたことで融通がきかない社会になっていると思います。

もちろん先生方の働き方を確保するためにも、どこかで切らなくていけないということはあると思うのですが、そもそも教育職とか福祉職というのは、常に人が育つ場であるので、経済的な動きとはまた職種が違うと思います。そういったときに家庭で抱えている子どもの問題とか親の悩みというのをどこかで拾い上げるシステムが、24時間体制まで求めませんが、あるとよいと思います。

今も小学校は多分4時45分あたりでもう電話はつながらないし、朝も8時ぐらいでないと、ほとんどつながらず留守番電話サービスにつながってしまうので、大体は今ネットで、出席もインターネットでのマチコミメールから入って連絡をしているのですが、やはり便利である分、先生の声が生肉声で、お互いのコミュニケーションがちょっとしたニュアンスというところで取りにくさというのが私でも時々不具合を感じるので、まして第1子の新しく小学校とか入られた、幼稚園入られたというお母さん方お父さん方は、もどかしさを感じる場面というのは何度も起こり得るのではないかというのが感覚的にあります。

そういうところがどうにかこの「いい那珂暮らし」は、すごく市と市政と、街の人々がいいまちをつくっていきたい、それも未来につながる、つながりを持ったという市を、未来を希望してこういう計画を立てているから、そういったところ白か黒かではなくて、曖昧なところの色合いというのを残しながら、こういう施策というのは立ててもらえると保護者のかたが安心して子育てできるのではと思いました。

その中で先ほどおっしゃった、体操服なども今まではバザーがありました。小学校でも秋祭りなどいろいろな名前はあると思うのですが、土曜日開催とかで、保護者もPTAが入って炊き出しをしたりとか、その一角で、体操服譲りますよとかノートとか余りがあるからほかの人どうぞとか、そういう橋渡しが人と人の顔が見え

てやっていたことが、コロナ禍となり、バザー行事もほぼなくなっているというのは感覚的に復活はしてないです。いろいろな形はあるのでしょうけど親と親が集える回数や機会が大分減っていると思います。こういったことで、卒業したけどこのジャージどうしようと手持ち無沙汰でどうしようかな、取りあえずたんすに入れておこうという卒業生を持つ親は多くいると思います。

そういう方々がどうやって学校に歩み寄り、次の世代の形でぜひと、やることは簡単なのだけでも実行に移すまでが1番難しいところではないかと思っています。

そういうところを市でどうにかしてほしいとか、計画に具体的に組み込むのではないですが、そういうサイクルがどうすれば生み出せるのだろうというところは私はいつも考えていて、何か良い方法で、子育てのサポートセンターでも、支援センターでもそうですが、そういう社会が生まれるような若い頃から積み重ねというのがある市であってほしいと願っています。

○清水議長

これをPTAに丸投げしようという形になると義務感が出て、うまく動かないというようなことになってくるというのは予想できそうな気はします。人々の気持ちや支え合いといった情勢は、非常に難しいですが大事なお話かと思っています。他にこういった視点が抜けているなど、ありますでしょうか。

先崎委員、お願いします。

○先崎委員

教育支援センターなどを利用する前に、保護者が学校に行ったときに相談事があると言ったときに、ある学校でメモしますかと先生が言ったそうです。そういうことはみんな今の時代ですから、メモしますかと言われるとばかにされたような感覚になると思います。先生方も対応時点でどういう風にしたらいいのかというのを学ぶような機会を設けて、カウンセリングマインドといいますか、相手が何を言わんとしているのかどう対応したらいいのか、何を求めているのかということを感じ取って対応できるようなスキルを身につけ、那珂市の先生方はすごい、こういうふうになれば、子ども・子育ての大きな重要な要素になってくるのではないかと思います。

今でもやっていると先生方はおっしゃるかもしれませんが、初期対応が上手にできるような先生方の育成をすることは、子育てにとって非常に重要なことだと思いますので、ご配慮いただきたいと思います。

○清水議長

なかなか難しいですね。文脈によっては非常にいいサポートになることもあれば、ばかにされたと感じられるかたもいらっしゃるというのは、なかなか難しいなと思いますが、カウンセリングマインドは大切ですね。

勝山委員、お願いします。

○勝山委員

清水先生の3番目のところだったかと思うのですが、働く親への支援で子育て支援で、例えば家庭教育学級の講演会とかそういうのは、ここのところずっと土曜

日に開催されているように思います。

そのため、土日の開催を積極的にというのは大体、生涯学習課から来るものは土日で、それに、ここにいるメンバーは大体10月11月12月は月2回顔を合わせるぐらいに参加するのですが、子どもがいる親の人数が少なくなっているのもあるとは思いますが、会場を見渡すと、大体高齢というか、保護者とは該当しないような、年齢の人がほとんどのように見受けられます。

この間の土曜日は子連れで来て託児所も用意されていて、何人か、子育て世代と思う人はいました。なのでその土日開催すれば、働く親が必ずそういうのに参加するかということそうではないと思うので、何か、ほかの手だてがあればということを感じたので、伝えておいたほうがよいかなと思いました。

○関委員

今の関係で、教育委員会のかた、学校教育課の課長、部長から見て、この前の「親が変われば子どもも変わる」とらぼーるでありました。通知は我々民生委員にも当然来ています。あとは青少年相談員などにも来ていると思いますが、勝山さんが言ったように、小さい子どもさんを本来の対象、目的とする方の周知方法というのはどのようにやっていたのでしょうか。

○浅野委員

細かく把握しきれないかもしれませんが、子育てですから子どもと親御さんには通知が行くような形で周知をしていると私は思っておりますが、なかなか今ライフスタイルも変わっていますので、子どもも少ない中、いろいろな行事もあちこちでやっています。

そういったところで取捨選択して親御さんもどこに行くか、もしくは習い事等に連れていっているとか、そういったことも聞いております。

そのため土日に開催したからといって、人が来るというシチュエーションには中々ならないので、これも一つの課題であるのかなと私は認識しています。

○関委員

分かりました。

○清水議長

近隣の保育所や幼稚園等にはご連絡は行っていますか。

平澤委員、お願いします。

○平澤委員

ひまわり幼稚園では手紙が配られるのですが、ただ皆さん結構見ないで、そこら辺にポイという感じにしているのかなと思います。幼稚園でもおはなし会みたいなものがあるのですが、集まるお母さんたちは決まったメンバーで10人いるかいなかで集まりは悪いです。

○平野(由)委員

やはり時代の流れというか世代の変化は本当に著しく、何かよい話が聞けると思って企画する側はこの先生に頼めば間違いのない、きっと響くだろうと思って企画

しても、やはり今の子育ての保護者の方々は大体が、授業形態というか、聞くだけとか、講演会のようなものはもうおなかいっぱいという印象です。極端にはアレルギー反応まで行きませんが、あんまりその興味関心を子どもたちを預けて聞きたいというのはよっぽどで、どちらかという、体験型授業のように親も子も一緒になって体を動かしたり何かを体験することで、親子共々楽しかったと思ってそれを家に持ち帰って何か家でできることがあると、つなげていくほうが求められていると思います。

行ったところで関心を向けるイベントとかに集まる。私の周りも圧倒的に多いです。そういったことを那珂市でもいろんな農業であったり、生産であったり、いろいろなプロフェッショナルな方々は、ご年配のかたもたくさんいらっしゃって、そういう人材を大事にするためにもそこをプラットフォームにして、1歳からでも土いじりすることで虫を探したり、野菜育てを横目で見ながら土をさわって遊ぶとか、そういうことを仕事の中で一角だけでも許してくださる農家の方がいらっしゃれば、そこに平日親子で遊びに行くとか、そういったところから教育というのは既に始まっているのではないかなと思います。

そういうもので子育て世代と子育てを終えた世代というところに分断があるわけではなくて、うまくそこがつながって子どもを、今、日本でこどもまんなか社会と言われるぐらい子どもを大事にしよう、社会で育てようという動きに風向きが変わっているので、そういうところを市を挙げて、僕はこれだったら子どもに提供できるよとか、そういう方々が得意分野を発揮してくださる、子育て世代が選べるというのが良いと思います。今日はここ行こうかなとか、あいていれば少し遊んで来ようかなとか、そういうところがうまくつながると子ども・子育て支援事業計画も、活字とか形とか形式の柱だけでなく、具体的に体験して充実したと感じた人から伝わり、支援の輪が広がるのかもしれない。やはり目に見えることを展開していくというのが遠回りなようで1番近道かなと感じました。

○清水議長

37ページの基本目標3のところに、地域社会全体が子育てを支えるまちづくりという項目、基本目標がありますが、そういうところの基本施策2の児童の健全育成のところに、今はスポーツ教室の開催やスポーツ少年団、こういう形式がしっかりしたもののみ掲載されてますが、そういう地場産業を生かした取組が入ってもよいのかなとお話を伺っていて、地域とのつながりをより強固にしていくようなことができればよいのかなと思いました。

○平野(由)委員

スポーツ少年団、我が家も実は子どもたちが入っていますが、やはり一つのスポーツに特化してスポーツ少年団に入ると時間も費やされますが、お金がとてめにかかります。スポーツによって、遠征費もあるし、うちはソフトボール入っていますが、いくら子どもがソフトボールや野球に興味をもっても、もう親の職業、仕事のスケジュールや経済的なことでやらせてあげたいけど無理という人もいて、そういうのは何

か全てその少年団とかそういうところや団体ではなくて、さっき言ったように、土日ふらっと森に入ってみようかとか、畑に行ってみようかという時に、こういうところがあるよと手を広げてくださっている地域の人がいれば、足を運ぶというのはこんなに自然豊かな那珂市だったら協力者さえいれば、豊かな体験は誰でもできるなと思って、そういう願いも込めて、経済的にあまり影響されない体験の場というのがあるとよいと思います。

○平野(道)委員

スポーツ少年団の話が出たのですが、本当に考え方がいろいろでやらせられるお金に余裕があっても、親が興味を持っていなければ一切やらせません。

子どもがやりたいと思っていてお金に余裕があったとしても、その親が面倒くさいと思うところをどうにかしていかなければいけないのかなと思います。

講演会も、もちろんイベントとかフェスとかそういうものがあれば、親は来るのだけでも、講演会になると、全然興味がない。これも親の勝手だなと私は思います。一概にフェスやイベントがいいとばかりではないと思いますので、やはりきちんとした講演会にぜひ来ていただいて、内容をしっかり親として勉強してもらいたいというところは、とても大切なところだと考えています。

もう1つ例として出させていただきますと、何年か前になりますが、学校行事、教育委員会が主催する行事で駅伝などいろいろあると思うのですが、そういうものに学校の代表としてお子さんが頑張って、子どもはその学校の代表になってみんなで走れる、応援したい。学校としてももちろん応援して出したい。親にお願いしても、親が「いやうちは面倒くさいからいいです。」先生方は一生懸命取り組んでも、親の考え方一つで子どもは代表にせっかく選ばれたのに、出られない、あなたはその日は家にいなさいと、要するに子どもは親の考え一つで生活の流れが変わってしまうというところがとても大切で、そこを見逃さないでほしいと思います。

やはり子育てはもちろん子どもが中心だけでも、親なんです。親の考え方一つで子どもの行動が変わってきますので、本当にそのときの先生、学校の行事を親の都合で、休ませる親がいるんですよと悲しそうに話した先生の、子どもの気持ちも酌んで言った先生の顔はいまでも忘れられられません。やはり楽しみながらというところももちろん大切ですが、やはり貴重な講演会をどうやって親に聞いてもらうか。

例えば自宅でも聞けますよ、オンラインでも聞けますよとか、方法を考えていただきたい。講演会であれば、「親が変われば子どもも変わる」は自分の娘がいるときから関わっているところですが、なかなか変わらないでいる実態があるのも大きなところで、親の興味があるものをやればいいというわけではないですけども、やはりしっかり親育て、子育てというところをやっていかなければいけないのかなと今の話を聞きながら思っていました。

もちろん自然に触れ合いながら、親と子が楽しいことだと触れ合うんですけど、面倒くさいことだと言う親がいて、最近その傾向が多く、せっかくいいものをして

も集まらないという実態をクリアしていかなければいけないと思うのですが、であれば今はインターネット、オンラインで聞いてもらえるというところで一斉に流すとか、そういうところも必要になってくるのかなというのは、少し考えるところです。

○清水議長

私自身も、いろいろイベント等を開く側になることがあります、集客がよくないイベントは怒られそうな気がするタイトルがついているというものがあると思います。今回お話がある「親が変われば子どもが変わる」というのは非常に正しいことだと思いつつも、親の立場からすると「あなたのせいであなたの子どもに問題があるのですよ」と言われてるような気がして、そこに行くと、何か怒られるというか、私の活動でいうと生活リズムの改善講座のような形でやると、「私は遅寝早起きで生活リズムぐちゃぐちゃだから」というかたは一切いらっしゃらないです。

ですが、困り感といいますか、「子育てが楽になる」というようなタイトルにすると、内容は全く同じですけども人が集まっていらっしゃったりするので、そのため少しタイトルというのも、あなたが今困っていることが助かる、楽になるものだよという形のタイトルにしていただけると関心ももちやすいのかなと思いました。

あとは、せっかくですので最後に委員の皆様、ご参加されていますので、感想でもご意見でも何でも構いませんので一言頂きたいなと思います。この後ですけども、様々な意見は、これまでの会議でもかなり意見を出していただいていますので、そちらとあわせて、答申に盛り込むかというところで決を取りたいというふうに思います。

では、まずは感想でも、ご意見でも構いませんので、長山委員よろしく願います。

○長山委員

複数回この会議に参加させていただきまして、学校というところが全て色々なことを、知っている前提で動いているのですが、こういった直接、保護者のかたや地域のかたからお話を聞くということは、ないわけではないのですが、私と面と向かって話しするときには、お互いフィルターや壁を通しながら話をしているので、なかなか見たいものが見えないというところがありましたが、特に今回第4回目で最後にあったことなどについては、学校としても考えなくてはいけないところ、それはすごく感じたものが大きいです。

そのことをしっかりと踏まえ、私は校長という立場で来ているので、この会議のことをまず各学校の校長に伝えなくてはいけないなということが1番の感想です。那珂市としてどういうことをやっているのかも当然ありますが、那珂市の住んでいる一人ひとりがどのような考え方を持って、そして今日も学校に対する期待のあらわれかと思いますが、そういうお言葉をいただいたということは、それに向かって我々がやらなくてはいけないなというところがありました。

私の次の仕事としては、次の校長会でこの内容をどこまで話をしていいかは教育委員会と確認をしたいと思うのですが、私の私見として話をしたいと思うのです

が、きちんと伝えていきたいなと思います。そうするとその中で子どもへの対応の仕方、先ほどのカウンセリングマインドの話、あとは学校が行っている行事のマナー化、名称を変えない、本当にこれも保護者のかたに参加してほしいけれどもしてくれないというときの責任転嫁をどこにしているかなど反省の弁もありますので、その辺りは学校としてやらなくてはいけないかと思っています。

この会議に参加をさせていただいて数値的なもの、内容的なもの、本当に知ることができました。まだまだ理解は不十分な面はありますが、これから出てくるものに対して、見方が変わるかなと思いますので、ぜひその辺りは今後学校教育の現場として生かしていければと思っています。

○清水議長

ありがとうございます。2月にもう1回集まりますので、よろしくお願いします。

○長山委員

それでは、そのときに経過報告をしたいと思いますので、各学校の管理職の意見や感想などもお伝えできればと思いますので、楽しみに待ってください。

ありがとうございます。

○清水議長

永井委員、いかがでしょうか。

○永井委員

保育園なので、やはり皆さんからの声を聞いたときに考えるところがいろいろありました。うちのほうでも親に伝えたいこと、この保護者に対しても伝えたいことというのがありますがやはり親は分かっていると言われたくないというのが出たりする場面もたくさんあります。

でもこちらとしては、このことだけは今の子育ての小さい子、特に食事が大事ななんて思ったときには、那珂市の栄養士さんに声かけてきてもらったことがあります。というのは、普通の日ではなくて、入園式のときには忙しくても、大変だけれども、月末には総会があるので、その総会のときに、年間計画も伝え、そして保護者とのレクリエーションや親子の遊びがあり、ほぼ全員来てくれるので、そういうときの30分から40分くらいの時間に0歳の保護者にはそんな話をしました。年によっては、そのときに、学校関係の話をしていただいたこともありました。

そのため普通の日や特別招集するということでは人が集まらないというのはずっと経験していたので、そのときならこの大事な話だけは聞いてくれるなど、年に1度ですが、そのときはとても大事にして伝えていきます。

あと先ほど制服やランドセルの話が出たときに、市によってはランドセルが提供されるという話をよく耳にします。本当にもう4月末、5月、6月の頃になると来年度のランドセルのパフレットが来るんです。そして、見るとすごい金額に上がっていて、10万円以上するものがあるぐらいに、それを親が買ってあげたいけどやはり買ってあげられない家もあるし、子どものわがままではないけど、要望に答えなければならぬ環境をつくるというのも考えていかなければいけないなと思います。

特にランドセルに関しては、もし、市長に交渉できれば、同じものであれば、子どもはそれで納得するし親の負担も大きな金額がなくなる思いました。

リサイクルもありますけど、でもリサイクルになったときに、子どもはそれで我慢ができるのか。本当に学校上がるまでに、ある程度、親とのやりとりができていて、我慢ができる子になっているのかというのは、今の子どもたちを見ていて、親子関係、すごくそういう子育てには大事なことだなと思います。例えば運動会で負けた悔しさとか、我慢しなきゃならないというのは、保育の生活の中に入れていきますけれど、でも基本は家庭なので、家庭の中でよく話をして、気持ちを抑えていく子育てをしていかないとどんどんエスカレートして、中学校に行ったらこれが欲しい、高校行ったらこれという風になっていき、大人になったときに前回も言いましたように、結婚したら自分は苦労するだから結婚しないみたいな、そういうところにもつながるような人が育ってしまうと思います。

家庭の良さであり、人とのやりとりの良さでありというものをどこで伝えていくのかというのは、幼少期からずっと親が主ですが、そこでいろいろな刺激を受ければ、社会に出たときの大人を育てるという責任を持ちながらやっていかなければならない。そのため今の親を見たときにこういう家庭生活だったのかなというのも見えるぐらいに感じますので、幼少期には自分たちにできることをやっていきたいなと思っています。

○清水議長

ランドセルに関しては確かにそのリサイクルが受け入れられるのかというところの視点というのは確かに何かを始める前にしっかり確認しないと、1年生でぴかぴかのランドセルというイメージだったのに自分だけリサイクルということですね。そういうのが受け入れられる社会になっていけばいいですね。

笹島委員、お願いいたします。

○笹島委員

商工会の女性部で副部長をして、ここに参加していますが、ほとんど部外者という、みなさん本当に専門的な用語があって、例えば私、本当に勉強不足ですが、合計特殊出生率という言葉さえ分からなかったというか、聞いたことがあるなという程度でした。これは私だけではなく、商工会のそういうときにみんなに聞いてみました。合計特殊出生率って知っているかと。

そしたら、10人程度で知っている人は1人、2人でした。だから、ここに来て本当に皆さん、専門的というか、子どものためを思って、すごい活発な意見を聞いて私本当に1人の観客じゃないですが、みんな意見があってすごいなと、それは一般の市民の意見だと思います。こんなにみんながいろいろな意見を出して苦労して、こういう策定しているのに、それを普通の人は知らないわけです。

すごいもったいないというか、この第3期ですけど、1期も2期も見ただけです。本当に申し訳ないなと思いながら、なるべく参加して勉強しようと思いながらここに来ています。去年から参加していますが、本当にさっきの平野(由)委員の発

言ですが、今の学校の内情、私たちが子育てしてたときと随分学校の対応は違うんだと、4時半で終わりみたいな、一応働き方改革とかありますけれど、本当に電話がつながらないんだと思ってそれもびっくりしました。

自分の感想だけで、申し訳ないですが何の意見もなく、ここに参加しているのが一般市民代表みたいな感じで本当に聞かせていただいております。勉強したいなと思います。

○清水議長

ありがとうございます。笹島委員の言葉すごく大切に、この後事業計画の案をパブリックコメントという形で市民の皆さんに開示をして意見をいただくという期間があります。そのときに、おそらく皆さん、見たことないというかたが多いのかと思いますので周りのかたにぜひそのパブリックコメントを受け付けている期間だよと市に意見を言える時期なんだよということを周囲のかたにお伝えいただく、受けるというのも委員の皆様の役目の一つとしてあるのかなというのが一点。

あと市が提供する資料ですけれどもやはりやさしい日本語というのが今すごく言われているかと思しますので、分かりやすく記載するということでは専門用語は説明がこれから入ってくると思いますが、そういったところのご配慮というの、いただけるといいのかなと感じています。

先崎委員、お願いします。

○先崎委員

ランドセルと自転車については、業者と提携すれば、使い古しのランドセルもぴかぴかに磨いてくれるということは可能だと思います。そうすると、お古だという劣等感は拭いされる可能性は高いと思います。

あと私の近くには小さな子どもが1人しかいないものですから、親が変わればという、大きなのぼり旗を外しました。外して別な挨拶に張り替えました。

親が変わればのことについては私ももちろん参加していますが、そのときに勝山委員が言われたように、本当に子育て中のパパママが少なかったのを感じました。何が原因かと感じたんですが、中心になっているのは、那珂市の青少年育成那珂市民会議です。共催は教育委員会ですが、やればよいとか、みんなに連絡すればよいとか、そういう傾向がもしかしたらあるのかなと思います。

何のために周知するのか、何のために実施するのかという心を込めた仕事というのは私たちももちろん求められますが、何のためにするのかということを意識したら、いろんなことがよくなると思いました。

○清水議長

ありがとうございます。勝山委員お願いします。

○勝山委員

私は名簿の3番目にあるのですが、私の所属団体名のところが省略されているので、本の中に載るとすれば、正式にと思ひまして、那珂市その次に連合というのが入って那珂市連合民生委員児童委員協議会、その次の児童・母子委員長で

す。児童・母子委員会というのがあるものですから、児童・母子委員長になると思います。次回の役になった人が入るとすると、また同じことになるかなと思ひまして、お話ししておきます。

私もこの会に参加するまでは、那珂市の子ども・子育てのことがこのように決まっていくな、ほんの一端に触れただけかもしれないですけども、縦横のつながりとか勉強させていただきありがとうございました。

今まででしたらパブリックコメントを求められてもそれをしなかったですが、今度は機会があればするようにしたいと思います。

○清水議長

ありがとうございます。では関委員、お願いします。

○関委員

民生委員の関です。私も第1回目にて去年出たとき、男性が非常に少なく、そのあと若干増えまして、正直言ひまして私は子ども・子育ては、本当にピンとこなかったとありました。この会議も、ただ行けばよいのだから年に3回だからということで、社会福祉課を通じて委員になったわけですが、非常に勉強になりました。

今年は特に第3期計画がある関係で、会議は非常に多くなります。私も孫の子どもが生まれるときは、そういう感覚で、一生懸命頑張ってくださいとただ思うのです。先週の火曜日からちょうど1週間前、先崎市長と、赤い羽根募金活動で一緒になりまして、雑談的にいろいろ話しました。那珂市は非常に水戸市に近い、ひたちなか市に近い、工業都市の日立市にも近い。地理的、地形的条件が非常に良いもかわらず、人口が毎年毎年僅かであるけど、減少しています。常陸太田市とか常陸大宮市と違って大幅な減少はないけれど、やはり子ども・子育てというのは本当に若い人、世帯数は増えています。新築が次々できています。だけど人口が減少している。やはりそれには若い人をいかに引きつけるかと、結婚したら那珂市で住むと。

正直言ひていろんな面で東海村とは比較が非常に難しいです。原子力の関係がありますから、裕福な村ですから、いくら村といっても財源的に那珂市と比較するのは難しいですが、やはり若い方が非常に東海村に転入しています。そのことで市長にも立ち話ですが、やはり若い人が住むようにしなければならないのではないかと、道の駅も単なる道の駅ではなくていろいろできるということで、市長も言っていました。あとは植物園も改修しますよね。あそこも非常に地形的条件がいいのにもかかわらず若い人があまりいません。

やはりそれには若い人がこの子ども・子育て支援事業計画が重要で、非常に良い計画ができるのではないかと思います。ありがとうございました。

○清水議長

皆さん何か最後の挨拶のようになっていますが、実は2月にあるそうです。よろしくをお願いします。

平澤委員、お願いします。

○平澤委員

ひまわり幼稚園のPTA副会長平澤です。このような会議に参加するのは初めてで、本当に勉強不足もあり話をうまくまとめられなかったり、至らない点が多く、申し訳なかったのですが、皆さんいつも温かく聞いてくださるので本当に感謝しています。

会議の内容は本当に私自身考えさせられるものばかりで、またいろいろな情報を得ることができました。会議の内容は幼稚園でも、PTA役員のメンバーや先生たちとも共有しています。特に講演会にはより多くのお母さんやお父さんに参加してもらえるようにどうしたらよいかというのを幼稚園でも考えていけたらと思います。

○清水議長

ありがとうございます。では平野由起子委員、お願いします。

○平野(由)委員

2月が残されているということで、まだ今日で終わりではないですが、私もそのとき思い浮かんだことで、今日ランドセルということもキーワードになるぐらい話が出ていて、私、ランドセルに縛られる必要はないのではないかとか思いました。ナップサックや機能性重視のアウトドアとかのすごく頑丈な10年でも使えるような、今1番下が小学2年ですが、その同級生たちもすごく体に恵まれた大きい男の子は、5年生ぐらいになるとランドセルを背負えないです。

そのときにも届かないとか言いながら背負っている姿を見ると「1年生から大きくなったな」と、近所のおばちゃんとしてほほ笑ましいです。ランドセルを背負いたい子、新品が欲しい子、リサイクルでもいいよという子、というランドセルの選択肢があると同様に、ナップサックの選択肢があってもよいのではないのでしょうか。中学生がリュックサックで重いテキストをたくさんが持ち運んでいる姿を見ると、体にフィットする柔軟性の高い機能性があるもの、例えば10万円掛けるんだったら、小学6年まで手放すのではなくて、ランドセルかリュックサックの選択肢があってもいいのではないかなと、ランドセルだけが全てではないのではないというのが個人的に思いました。

先ほど長山委員のお話を伺って、私たちもPTAとして本当に学校には協力したいです。うちの息子が事情があって学校になかなか行きたくても行けない時期がありました。そのときに、担任も気にしてくれるから電話は来るんです。だけど5時ぐらいに電話をいただけますが、4時半とかでも私たち夫婦が、ちょうど勤務中で、携帯電話と全く別のところで仕事をしていたりすると、せっかく着信いただいて先生の何らか伝えたいとか話したいというサインを、私たちは気づくこともできません。退勤後に、着信があったときに、それが金曜日の夕方だったりすると、かけ直してもつながらないです。土日が過ぎるモヤモヤというか、先生の気持ちもここでつなげなかったというのが私も何回も経験していて、それでもうちの子どものことを伝えたくても、電話を媒介にしたら絶対通じないので、どうしようもないときには、暗くなったけど、学校の明かりがついてると思って帰り、学校に寄って、先生が

いらっしゃったので、「ごめんなさい、勤務時間外ですよ」と言って、少しでもお話しできて幸いでした。システムが先にあり、どうしても今保護者と話したいという先生からのサインはこっちは受け止めるけど、保護者の助けてという「先生ちょっと電話でよいから本当は学校なんか行きたくない、先生を早く開放させてあげたい、でもどうしても電話が繋がらない」というときの家庭から学校への発信がもうメール以外は全てなしというのが、私だけではなくてやはりつながりたいときつながらないという大きな不安があります。1番子どもの精神状態にもつながるから、期待を込めて学校にうまく柔軟性のある対応があると、親と子と一つになって、子どもを支えられるかなと感じました。

役割の存在がすごく大きくなるとすごく動きにくいというのを感じて、先生や親という前に、やはりみんな人と人なのではないかと思って、そこをどういうふうに折り合いつけていくと、教育の周りが円滑なのだろうとか、子ども・子育ては教育とも切り離せないで、すごくそういうところを考えさせられた機会です。

最初の14ページに那珂市の現状ニーズ調査の課題で、子育て家庭を取り巻く現状とニーズ調査から見えてきたということがこれだけ箇条書であって、1番最後に課題と求められる対応とピンクのところにあります。黒ポチで羅列されてると思うのですが、この後のこの基本理念の後に、具体的な基本策の後に、具体的施策1、2、3となっているのですが、細かく説明されているのはなるほどと思います。しかし、このパブリックコメントで市民に提供する際に、この課題がせっかくピンクのところにつながっているのが、このピンクがここにつながってるんだよとかこの2本目のピンクの部分はここに反映されているというのが、何か記号であったりABCでもいいので、道しるべとなるような表記をするとよいと思います。

例えば学童保育のことで、自分の中で悩んでいると保護者が見たときに、1、2番は後でちょっと取っ払ってもう3のとこだけでもアクセスしていく、具体的に那珂市の動向というのをチェックしたいなという人はそこで具体的なところを読み取ってくれるのではないかなと思って、記号化されると、市民のかたは見やすさがより明確になるかなと思いました。

○清水議長

非常に重要なお指摘もいただきましてありがとうございます。

平野道代委員、お願いします。

○平野(道)委員

いろいろ意見が出ましたが、やはり基本計画、今度出来上がるということで、先崎委員がおっしゃっていた、やはり数字や文言というところは、きちんと、最後まで仕上げていかなければいけないのかなとすごく感じているところです。

本当に皆さんからいろいろお話が聞けて私もよかったなと思いつつ、自分の中でも、例えばイベントと講演会をコラボすれば、何らかのいい方向に行くのかなと貴重なご意見いただいたと思います。ただこの中で、私はもう少し那珂市としては食育も丁寧にしていけると本当はよいのかなと思います。子どもたち自身もこの

野菜食べるとおいしいんだよということを知れるような。ただ給食を出していますではなくて、少し食育みたいなところが入ってくるとよいのかなと感じていたところもあります。

あとランドセルや体操服のリサイクルの方法というところで私たちも余り周知はしていないのですが相談室の中にも、お母さんたち気づいて持ってきてくれるかたがいます。それで本当に貧困で、1年生のときには新しい体操服を買ってあげることができた、1年生のときにランドセルをみんなと同じように、親の思いとしてぴかぴかのものを買ってあげたかった。それは次女、三女、下のお子さん男の子に限っても、みんな同じく何とか親としてやってあげたい。けれど途中で壊れてしまったとき、ランドセルのひもが切れてしまったときに、うちのほうでは、赤色と黒色しかありませんけれども、所有をしているので、何年かに1回ぐらいですが、ランドセル何とかありませんかという親御さんがいらっしゃいます。寄付してくださるかたはランドセルをととてもきれいにしてくださるので、家庭という言葉を使っていいのかわかりませんが、提供をしたり、各小学校の運動服、体操服、あとは制服なども体形が変わってしまったから、サイズが変わってしまったからということで、置き置きをしているものもあります。

学校でも、卒業して使わないからと言って体操服など、保管されている。転校してきたお子さんとか、それからどうしても間に合わないというお子さんにはレンタルしているとお聞きしていますので、そういうところをもう少し活用していけるのかなと感じていました。

また2月に最終的なところがあるということで、長山委員のお話も楽しみに待っていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○清水議長

ありがとうございます。生田目委員と浅野委員にもこの計画に関していただきたいと思います。

○生田目委員

私はこども課の担当部長なので、事務局よりの意見になってしまうと思いますが、本当にこの会議で、委員の皆様お忙しい中ご出席いただいて、たくさんの意見をいただいて本当によい会議だと思っております。ありがとうございます。

先ほどの関委員からもありましたが、那珂市としては、この上の計画まち・ひと・しごと総合戦略の計画があるのですが、その中でも、若い女性が少なくなっているというところが課題で、この若い人たちこそ、子どもを産んで育てやすい環境づくりがすごく大事だと子育て支援が大事だというのが課題に挙がってまして、この計画を策定中がすごく大事なことは私も思っているところです。

皆さんの意見をお伺いしまして、全部が全部すぐにこの計画に反映できるところばかりではないと思うのですが、今後の課題として、これ以降も引き続きいろいろ検討させていただきたいと思います。

○清水議長

浅野委員をお願いします。

○浅野委員

皆さんからの貴重なお話、大変参考になります。私も4月から教育部に配属されまして、この子育ての計画に参加させていただいています。隣にいる福祉部長と同じような意見となりますが、子育てというのは教育福祉、全部ひとまとめにして、本当に重要な市の政策だと思っています。

ですので、学校と福祉だけではなくこれからも、地域の皆様、また学校の関係者、教育委員会としてもいろいろな地域のかたを巻き込みながら、皆さんで子育てをしていきたいと考えを改めて持った次第です。皆さんからの、例えば今日のお話で親が変わればの話も聞きましたし、こういったことをまた教育委員会でも情報共有したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

○清水議長

そうしましたら、この事業計画(案)につきまして、まずは事務局のほうでご準備いただいています、第3期那珂市子ども・子育て支援事業計画(案)について、特に大きなご異議等なければこのような形で進めていくということの決をとらせていただいて、あとこの会議としての答申の内容について改めて決をとるという2段階構えでいきたいと思います。

そうしましたら、先にこの事業計画(案)の今のこの大まかな流れとしてのこの事業計画(案)こちらのほうご異議あるかたいらっしゃいますでしょうか。

(異議なし)

そうしましたら、ご異議ないということで、本件については承認いたします。

長くなりましたが、先ほどご説明しましたので、長くはお伝えいたしません、1つ目に学童の問題、また2つ目に見えない教育費の問題、また、3つ目が働く親支援、また、4つ目に乳幼児の親支援ということで、この内容で答申をこちらのほうでまとめさせていただくということで、ご異議ありませんでしょうか。

(異議なし)

この4点以外に、付け加えるということは、本日ご意見出たところで私のほうで少し付け加えるところを確認したいと思います。

以上をもちまして終わらせていただきます。

では議長の任を解かせていただきます。ご協力いただきましてありがとうございました。

○事務局 水野課長補佐

清水会長、ありがとうございました。次第4その他でございます。

(事務局説明)

その他、ほか何かご質問はございますでしょうか。

ないようですので、以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。長時間にわたる協議大変お疲れさまでした。委員の皆様におかれましては、また来年となりますけれども、今後ともご協力ご指導のほどよろしくお願いします。それで

は閉会いたします。皆様気をつけてお帰りください。お疲れさまでした。